

森 泰博教授のご退職に際して

春の訪れとともに、残念ながら今年もまた当学部では、永年教育・研究に携わってこられた先生方をお送りしなければならない時期となりました。

森 泰博教授は、2000年（平成12年）3月31日をもって関西学院大学を退職されます。教授は1954年（昭和29年）大阪大学経済学部をご卒業され、1959年（昭和34年）同大学大学院経済学研究科博士課程を修了されました。その後1975年4月より教授として本学にお迎えして以来、今日に至るまで25年の永年にわたって教育・研究と行政に力を尽くされ、その功績は大きなものであります。

教授はその永い教育活動を通して多くの卒業生を実業界に送り込まれ、現在その方がたは第一線で活躍されています。また教授の研究活動の特色は残存する史料を終始丹念に渉猟して、往事の状況をできるだけ忠実に再現しようとする点にあるといえるでしょう。先生のご研究は鴻池家など大阪における有力商人の取引記録をもとに、当時の大名貸の実態を明らかにする研究を多年にわたって行われ、その集大成が博士論文『大名金融史論』であります。その後は大阪株式取引所の成立に関する研究に移られ、また大阪の蔵屋敷関連の史料などを詳細に研究されています。近世大阪を中心とする経済・商業活動に関する研究において、先生は我が国の第一人者であると申し上げても過言ではありません。

さらにこれらの教育・研究に加えて、行政面でも多大な貢献をし

ていただきました。商学部学生主任（80－82年）、商学研究科教務学生委員（86－93年）、学部長室委員（94－2000年）などを歴任され、また産業研究所所長（96－98年）としてもご尽力下さいました。

森 泰博教授のご退職にあたり商学部ならびに大学に対する永年にわたるご貢献を称え、深い感謝の意を表すために、ここに記念号を発刊できることは大きな喜びであります。

終わりにあたり、この記念論集の刊行に際して、ご執筆いただいた先生方、そして記念号の編集にご努力いただいた論究委員会の先生方に心からお礼を申し上げます。

2000年3月

商学部長 今 井 讓